



福岡県那珂川市で約20年前に発掘された3基の古代墳墓が、石の積み方などから古代に東北などで暮らし、一部が九州に「防人」として移住させられた蝦夷の長らの墓とみられることが分かった。九州で蝦夷の墳墓が確認されるのは初めてという。分析に当たった「大野城心のふるさと館」(同県大野城市)の上田龍児氏は「今回の発見をきっかけに、各地で研究が進めば」と話した。

蝦夷の墳墓か 九州初確認

構造や規模などから末期古墳である可能性が極めて高いと考え、昨年11月に九州考古学会で発表した。末期古墳は主に北海道や東北で確認され、蝦夷の墓とされる。

墳墓は2005～06年度、九州新幹線の工事に伴い福岡県教育委員会が調査した。報告書によると、3基は那珂川市の観音山古墳群の一部で、いずれも溝に囲まれており、遺体を埋葬する部分は縦約2～3メートル、横約0.5～1メートル。

土器などの出土品から8世紀後半から9世紀前半に造られたとみられる。当時は土葬ではなく火葬が主流で、庶民では考えられない手厚い埋葬だったことから社会的地位の高かった人物と推定した。

奈良時代から平安時代にかけて、朝廷は東北地方の蝦夷を支配した。九州防人の防人として強制移住させたとの記録が歴史書「類聚国史」にあり、葬られた長は防人の可能性があるという。

福岡・那珂川の3基 強制移住、「防人」の可能性

福岡県那珂川市の観音山古墳群で発掘された古代墳墓
(九州歴史資料館提供)

2025年1月11日付18面

【問1】 古代墳墓が見つかったのは、どこでしょう。

【問2】 この墳墓が社会的地位の高かった人物と推定した理由は何でしょう。

【問3】 奈良時代から平安時代にかけて、朝廷は東北地方の何を支配したのでしょう。

【問4】 問3の人々を何として強制移住させた記録が残っているのでしょうか。

【考えてみよう】 身近な地域に残る墳墓について調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

那珂川(な・か・がわ)

発掘(はっくつ)

墳墓(ふん・ぼ)＝おはか。

分析(ぶん・せき) 伴(ともな)い

溝(みぞ) 埋葬(まい・そう)

土葬(ど・そう)＝遺体を火葬せず土にうめる埋葬方法。

庶民(しょ・みん)＝貴族などに対して、身分がふつうの人々。

朝廷(ちょう・てい)＝昔、天皇が政治をおこなったところ。

防御(ぼう・ぎょ)

類聚(るい・じゅう)

葬(ほうむ)る

